

【15の春に向けて そして卒業】

卒業を控えた3年生は、様々な行事に取り組みました。その一つが、3月7日（木）、諸塚村役場と連携して実施した「思春期福祉体験学習」でした。卒業を間近に控え、家を巣立つ生徒の自立に必要な、「性」の講話に始まり、数十年先の将来の生活設計にも取り組んでみました。



3月8日（金）には、全校で送別行事でした。生徒会が考えたポッチャやドッチボール校内かくれんぼなどで楽しい一時を過ごし、最後には、互いにメッセージを贈り合いました。学年をとおして皆で遊ぶ最後の機会となりました。互いに良き思い出が残せました。



3月14日（木）には、学校運営協議委員の甲斐健二さんのご厚意で、昨年に引き続き、記念植樹をしました。県道から塚原へ登り口の高台に、しゃくなげと河津桜の苗木を植えました。両方とも数年後には見事な花を咲かせ、諸塚中を見守ってくれることでしょう。



そして、3月16日（土）、卒業の日でした。当日は、天気も麗らかな快晴、という最高の状況の中、第77回卒業式を実施、10名の生徒が本校を巣立っていきました。

まず、卒業生一人一人に、卒業証書を手渡されました。式辞では、「自分の未来は、自分自身で切り開くような意思をもってほしい。」と述べました。在校生を代表して、黒木梁太郎君が、送辞を述べた後、卒業生を代表して、藤本晴さんが、答辞の中で、3年間の思い出と、故郷への思い、そしてこれから自分の足でしっかり、歩いていこうという力強いメッセージを伝えてくれました。

コロナ禍の中での入学で、前半は学校行事も十分に体験できない状況でしたが、いつも前を向いて、学校生活に取り組む姿は大変立派でした。特にしっかりとした挨拶ができ、他者への思いやりにあふれた3年生、最後は清々しい表情で学校を後にしました。

いつまでも元気で、行ってらっしゃい！

本年度の学校通信はこれが最終号です。

1年間、諸塚中学校の学校運営に対し、ご理解、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。令和6年度も、変わらぬご支援をいただきますよう、お願いします